

平成28年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
1 地域連携による教育力の向上 ①小中学校等との協働研究事業を推進する ②小中学校と生徒間交流事業を拡充する ③実践的・探究的地域学習を充実する	* 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会	協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	<u>5.4% B</u>	成果：本校の教員36名が輪島中学校の授業を参観し、中学校の教員も23名が本校の授業を参観したことにより、中高の授業の状況や生徒の状況について互いに理解を深めた。 課題：参観だけにとどまらず、中高個々の教員の指導力向上を図り、地域全体の教育力向上を目指すこと。 改善策：中高教員による研究協議会を開催して意見交換をし、指導力向上に繋げる。
	* 挨拶指導 * 中高学習交流 * 進路学習交流	小中学校との生徒間交流事業の実施回数が A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 3回以下	<u>2回 D</u>	成果：中学生との学習交流会や中学校でのキャリア教育講演会に参加した生徒は、地元の生徒に「教える」という体験を通して地域貢献意識を高め、達成感を得た。 課題：より多くの生徒が参加できる機会を増やすこと。 改善策：小中学校との情報交換を行ってスケジュール調整に努め、内容を検討し実施回数を増やす。
	* 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A 23% B 56% <u>A+B 79%</u>	成果：地域調べ学習や地元企業見学会、インターンシップ、朝市販売実習を通して、生徒の地域理解が深まった。 課題：地域の課題やその解決策について、より深く探究しようとする意識を高めること。 改善策：活動後の事後指導を充実させ、新たな課題意識をもたせる。

平成28年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>2: 学習意欲と深い思考力の向上</p> <p>①習熟度別学習指導を充実する</p> <p>②ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を導入する</p> <p>③家庭学習と連動させた授業・個別指導を実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別授業 * 発展学習講座 * 個別添削指導 * 土日学習会 	<p>入学当初の模試より模試成績を向上させた1年生の生徒が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>		<p>成果:</p> <p>課題: 10月模試の結果で判断</p> <p>改善策:</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * アクティブ・ラーニング型授業のための研修会 * 授業改善計画 	<p>アクティブ・ラーニング導入にむけた研修会の実施回数</p> <p>A 10回以上 B 8回以上 C 6回以上 D 5回以下</p>	<p><u>5回以下</u> D</p>	<p>成果: いしかわ探究スキル育成プロジェクトの担当者を中心に、アクティブ・ラーニング型授業に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>課題: より多くの教員がアクティブ・ラーニング型授業への理解を深めて実践し、授業改善に努めること。</p> <p>改善策: 秋以降に実施される研究授業の授業整理会を利用して研修会を行い、多くの教員の参加を促す。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談 	<p>自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p><u>73%</u> B</p>	<p>成果: それぞれの取組について、各学年や教科が計画的に取り組んでいることにより、学習に対する生徒の意識が向上している。</p> <p>課題: 生徒の家庭学習時間を伸ばし、より主体的な学習姿勢をつくること。</p> <p>改善策: 家庭学習を前提とした授業づくりに努め、習熟度別学習課題を充実させる。</p>

平成28年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
3: キャリア意識と人間力の向上 ①3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導を実践する ②両科生徒が協働した事業を実施する ③学校行事・課外活動を活性化する	* 3年間を見通した指導計画の作成と実践	内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している A 満足している B ある程度満足している C あまり満足していない D 満足していない		成果： 課題： <u>進路状況確定後判断</u> 改善策：
	* 全校挨拶運動 * 登校指導 * 進路自主学习	自分はTPOに応じて、適切な振る舞いができていると考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>94% A</u>	成果：今年度より実施している部活動毎の挨拶運動により、生徒がTPOにあわせた挨拶を意識して実践する機会が増えた。 課題：より高い意識を持って自分の振る舞いを見直すこと。 改善策：各課と連携し、授業における挨拶指導や各委員会毎の挨拶運動を実施することで、生徒同士の交流を図りながら生徒が主体的に活動する機会を増やす。
	* チャレンジウォーク * 学校祭 * 部活動 * ボランティア活動	学校行事や部活動に積極的に取り組むことができたと考える生徒の割合が A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A 51% B 44% <u>A+B 95%</u>	成果：チャレンジウォークや学校祭などの学校行事、及び部活動に、生徒は積極的に取り組むことができています。 課題：生徒が主体性をより高めること。 改善策：各行事の企画・運営の際に、より一層生徒が主体となって取り組む機会を増やす。